市民参画と協働によるまちづくりに必要なこと

2009. 10. 7　　1班

市民と行政とのつながり（参加、連携・協力）の場面や現状

現状　　**課題**

●どうやって、思いや意見を伝えているか

個人の意見

- インターネット（各課への問い合わせ）
- 担当課、係への問い合わせ
- 【個人】間接：ハガキ、メール　直接：関係課へ出向く、TEL

団体の意見

- 【団体】間接：ハガキ、メール、FAX　直接：関係課へ行って面談する
- 審議会等の公募に参加　自治会長の立場を活用
- ・まちづくり協議会への参加　・ボランティア団体の活動を通して

市の制度

- パブリックコメント
- 出前講座
- パブリックコメント
- 市長への手紙

現状では何もしていません

意見の偏り

- 批判的な意見が多い

わかりにくい

- どのように伝えていいのか手法が分かりづらい
- 良い意見を伝える担当窓口が分からない

情報不足

- まちづくりに参加するための情報が得にくい
- 携帯版市のHPで多くの市民情報があるとありがたい
- 市長への手紙の設置場所のPR・各場面で困っていることに対する担当窓口の告知

●どのような場面で、まちづくりに参加しているか

自治会・まち協

- 町内会への参加（役員etc）、まちづくり協議会、市の行事への参加（クリーンデー燕etc）
- 参加してほしいこと：各自治会の運営
- 地域の行事に参加する（クリーンデー、市展、市長との懇談会）
- まち協への若い人、女性の参加を望む
- 地域の茶の間開催（高齢者の閉じこもり防止）
- 町内会や駅周辺を中心に参加してほしい。町内会が無理ならば小学校区

市の情報を収集

- 広報を読む
- 納税への理解・協力

参加が少ない

- 利用者（参加者）が少ない
- 参加者が少ない。参加者を募る効果的な手段が分からない
- 自治会、まち協のイベントへの参加者が少ない
- まち協の集会、会議への参加者が少ない
- 各団体のリーダーの参加が少ない

参加者の偏り

- 顔ぶれが同じで参加者が少ない
- まちづくりに積極的に参加してくれる人の固定化
- 若い人の参加が少ない
- 決まった人がいろいろな行事に参加するので広げることが大切だが・・・
- 各自治会で参加対象を絞り込んでいる（世帯主が参加対象の部分がある）

参加しやすさ

- 行事などを通して参加者が、来てよかったと思わせることが大切
- 参加出来るように参加しやすい雰囲気をつくる必要がある
- 市全体でまちづくりに参加しやすい雰囲気づくりをする必要がある
- 他の行事と重なってしまい、参加することができない
- 行政は敷居が高い

市民の理解

- 参加に対して市民の理解が得られない

参加の場

- まちづくりに対する活動の場(PR)の提供

参加のための情報

- 実際にまちづくりに参加するための手段、方法が良く分からない
- まちづくりに参加したくてもどのように、どうやって参加したら良いか分からない

●市と連携・協力して活動している場面

協働

- 今の委員として参加。市民祭に参加（一部実行委員として）
- 各地域の祭り
- ボランティア祭り、ふれあいフォーラム、地域ふれあい吉田地区
- まち協で子供見守りボランティア活動で週一回58の交差点で声掛けをしている
- 宅配ボランティアを通しお年寄りを見守っている
- ・まちづくり協議会の活動　・自治会運営　・市民交流イベントの参加
- 祭り
- 町内独自で回覧文書を作成し、市等の情報を流している
- 側溝の泥上げ
- まち協で地区の文化財、史跡マップを発刊、配布をした

市民意識

- 市民の（活動）関心度希薄

役割分担

- 自治会がまち協への参加協力に欠けている

共通の目的

- 運営や活動方法etc.共通した指針(マニュアル)が整備されていない
- 自治会ごとに温度差がある

行政の支援

- 活動するための費用が必要

交流・一体

- 合併して3年、もう少し地域交流のしやすい方法はないか工夫する

市民参画と協働によるまちづくりに必要なこと
～課題や問題の解決方法や仕組み～

2009. 10. 7
1班

●市民の声がまちづくりにより反映されるためには

- 年代別にアンケートを実施して市民の意見を集約する
- 声なき声を市政に反映させるため幅広い意見を積極的に収集する
- 年代別（テーマ別）の委員募集と意見の集約、提言に対してのフィードバックの必要性
- 事業などの「企画立案」「実行」「評価」の各段階にみんなが参加できるようにする→行政の透明化
- 情報提供の充実（広報、HPなど）
- 出前講座の利用促進を市民へアピールする
- 市民生活に困ったらというときの担当窓口を書いたPR冊子を保存版の形で各戸に配布する
- 市役所に担当を分かりやすく表示する
- 意見に対する市の説明をきちんと行う

●市民参画をより推進するためには

- 各団体の参加の要請（安全協会、PTA、民生委員、老人クラブ、青少年等）
- 参加の必要性を明確にする。事後のフォロー（電話etc.）も行う。
- 参加者を募るための効果的なチラシ作成
- 企画のPR方法（売り込む方法）どうやったら関心を持ってもらえるか
- まちづくりの意識を広報紙、回覧板などで高めてもらう（他地域から来た転勤族も含めて）
- 参加の場づくり
- 広報紙だけでなく自治会で寄り合い的なものも必要（成人、社会人全員が町内会で参加できるように）
- 参加する上でのきっかけ作り
- 参加者に対するメリットを明確化する

●市民と行政の協働のまちづくりをより推進するためには

- 産、学、官、民の連携を図る
- 行政、市民、団体などの役割分担を明確にする
- 協働で行う事業を市民と行政が双方向で提案できるようにする。
- 行政支援（お金、物、人）を必要に応じて行う
- 交流の場の提供や支援制度の拡充
- ワークショップの活用を広げる（交流の促進）
- 広報、チラシ作成時に市民の方からも参加してもらう
- 自治会等の運営・活動のマニュアルの整備
- 自治会連合会への勉強会実施（リーダーのレベルアップを図る。地域格差をなくすため）
- 先進的に活動している地区の見学、学習会の開催
- リーダーの育成

市民参画と協働によるまちづくりに必要なこと

2009. 10. 7
1班

「市民の声がまちづくりにより反映されるためには」

- ✿ 市民の声がより反映されたまちづくりを行うためには、市民の声なき声を拾い上げることが重要であり、仕組みづくりが必要となる。
- ● 市は分かりやすい情報提供や制度に関する周知を様々な機会を捉えて行っていくことが重要。
- ● 意見がどう取り扱われたのかについて公表するとともに説明責任を果たしていくことも必要。
- ● 市民が、事業などの企画立案から実行、評価の各段階に参画する機会を保障するとともに、市民の皆さんの意見や提案を市政に適切に反映していく手法について常に検討していく必要がある。

「市民参画（企画立案、実施、評価の各段階への参加）をより推進するためには」

- ● 市民参画をより推進するため、みんなが市の情報を共有できるよう、市政運営を透明化していくことが必要。またその情報も正確でわかりやすいもので、なおかつ欲しい情報を誰でもいつでも入手できることも大事。
- ● 市民参画や協働の必要性をわかりやすく市民にお知らせして、より多くの市民からまちづくりに関心を持ってもらうことが必要。
- ✿ 参加しやすい環境づくりを考えていくことも必要で、学習機会の提供やまちづくりへの参加のきっかけづくり、参加しやすい雰囲気づくりなど、参加の場の創設が重要。

「市民と行政の協働（連携・協力）のまちづくりをより推進するためには」

- ● 産、学、官、民など各主体の連携を図るため、それぞれの役割分担を明確にして対等な立場で協力し合うことが必要。
- ● お互いを理解することが必要で、各主体同士の交流や情報交換の場の提供などの行政支援の充実も必要。
- ● 協働事業を市民と行政が双方向で提案できる仕組みなど、新たな取り組みを行っていくことも重要。
- ✿ 地域のレベルアップを図るため、リーダーの育成を図る活動が必要である。
- ✿ 地域の特性を大切にし、育てていくことが必要。